

(表中敬称略)

会議名	リカレント教育プログラム開発部会（第2回）		
日 時	令和4年12月12日（月）13:30～15:00		
場 所	オンライン（Zoom ミーティング）		
オンライン出席者（計13名）			
カテゴリ	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
産	一般社団法人近畿建設協会	チーフ	小室 篤史
産	西日本高速道路株式会社（関西支社）	構造担当部長	◎佐溝 純一
産	一般財団法人橋梁調査会近畿支部	近畿支部長	別木 孝
産	国土交通省近畿地方整備局企画部	技術調整管理官	堤 英彰
学（連携校）	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田 和也
学（連携校）	放送大学学園	主任	松本 雄一
事務局	福島工業高等専門学校	助教	浅野 寛元
事務局	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
事務局	長岡工業高等専門学校	特命助教	村山 達也
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
事務局	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江 正樹
◎：部会長 ○：副部会長			
議事次第			
1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也			
2. 部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様			
3. リカレント教育プログラムの実施状況について（報告）			
・リカレント教育プログラムの実施状況（全体・舞鶴高専）			
・基礎編（橋梁点検） 合計25回開催			
・応用編（橋梁点検） 4回（内、3回は開催済み）			
・専門特修講座 3回（講習会「施工技術と施工管理」は中止）			
・橋梁診断技術者認定講座 1/28-29 にて開催予定			
・リカレント教育プログラムの実施状況（連携4高専）			
4. 橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の改良状況について（報告）			
・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の改良状況			
・eラーニングの見直し、改良			
・選択式問題の増加、配点の一部変更			
・橋梁診断演習「措置とマネジメントの演習」の改良			
※詳細は資料3および令和4年度第1回議事録の通り			
5. 橋梁診断技術者育成課程のプログラム申請状況について（報告）			
・橋梁診断技術者育成課程のプログラム申請状況			
・職業実践力育成プログラム（BP）への申請について			

6. 意見交換

- ・『リカレント教育プログラムの受講促進』について
- ・受講者の母集団が小さい
- ・知名度が低い
- ・受講料や開催期間、インセンティブ設定

7. まとめ

8. その他（今後の予定、事務連絡等）

以上



写真1 舞鶴高専 玉田先生挨拶



写真2 佐溝部会長挨拶



写真3 オンライン参加者

リカレント教育プログラム開発部会（第2回）議事録

日時：令和4年12月12日（月）13:30～15:00

場所：オンライン（Zoom ミーティング）

（敬称略）

1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也
2. 部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様
3. リカレント教育プログラムの実施状況について（報告）
 - ✓ 専門特修講座では、実務家教員育成研修プログラム修了生に講師を依頼している。
 - ✓ 専門特修講座と橋梁診断技術者認定講座は、実証講座（無料）に対し、本講座（有料）の受講者が伸び悩んでいることが課題である。
 - ✓ 専門特修講座と橋梁診断の受講者確保には、基礎編・応用編の合格者増加が必須である。
 - ✓ 各高専での実施状況も踏まえ、講習会知名度向上のための広報活動が必須である。
4. 橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】の改良状況について（報告）
 - ✓ 「健全性の診断」に関する選択式問題5問の追加が報告された。
 - ✓ 近畿地方整備局の協力により、橋梁診断演習の対象橋梁となる「鋼橋」と「RC 橋」の他、演習レポート記載例となる「PC 橋」を加えた3橋分の教材が整備されたことが報告された。
5. 橋梁診断技術者育成課程のプログラム申請状況について（報告）
 - ✓ プログラムの価値向上と受講促進のため、「文部科学省：職業実践力育成プログラム」及び「厚生労働省：特定一般教育訓練」へ申請したことが報告された。
6. 意見交換
 - ・『リカレント教育プログラムの受講促進』について
 - ✓ 課題「専門特修講座と橋梁診断の受講者が少ない」に対して考えられる原因として、受講者の母集団が小さいこと、知名度が低いこと、受講料や開催期間やインセンティブの設定が考えられる。
 - ✓ 基礎編受講生より試験が非常に難しいという意見があった。各講座の内容・難易度について、受講者の期待と実際が乖離しないよう配慮が必要である。
 - ✓ 長岡高専で行われた事前ミーティングは参加率が悪く、受講者の意欲向上や合格率の増加には上手く繋がらなかった。
 - ✓ 講座の動機付け（何が目的か）というものが少しわかりにくいのではないかと
 - ✓ 放送大学学園におけるリカレント教育講座でも同様の問題（受講者の確保、受講料の金銭的なハードル、高難易度講座における受講者不足）が発生しており課題に感じている。放送大学では、受講促進対策として、大学からの団体受講の促進を図る他、アンケート協力者への受講料補助等を行っている。

- ✓ 福井高専のアンケート結果で、ボックスカルバートやコンクリート床版橋が多いエリアなので、そちらに特化してほしいとの意見があった。各地域の受講者ニーズを汲み、フットワーク軽く内容を調整していくような形を取ってはどうか。
- ✓ 受講促進として、企業単位での個別開催について検討してはどうか。
- ✓ コロナ等で参加できなくなった受講者へのフォローアップをすることで、最終的な合格者を増やすことができるのではないか

7. まとめ

8. その他（今後の予定、事務連絡等）

以上